

科目名 出版・流通論（サービス基盤形成）

春学期 AB モジュール		土曜日	3-6 時限	講義室：東京サテライト 321 講義室
担当教員	後藤嘉宏（オーガナイザー）ほか			
科目の概要	<p>本や雑誌をはじめとする資料・情報資源の生産並びに流通を、出版社や取次、書店だけでなく図書館での選書その他の場も含めた多様な流れで捉えていく。ここでとりあげる資料・情報資源は、紙媒体の印刷資料だけでなく文書から電子書籍などのデジタル情報資源まで多様な形態のメディアを含む。狭い意味での出版・流通論を中心に、それに関連するサービス基盤形成に関わる基礎知識を、歴史や新しい技術や法制度を含め、多面的に学ぶことを目的とする。</p>			
授業計画	<p>(1) 4/12(土)出版・流通の制度・機構（松林麻実子） (2) 4/26(土)図書館コレクションの構成（吉田右子） (3) 5/10(土)出版・デジタル情報資源の法的課題<知的財産権>（前半） （外部講師：小川明子 2 コマ） 地域資料・MLA 連携（図書館地域資料の再検討・再評価、それを踏まえた公共図書館における今後の MLA 連携への展望（白井哲哉 2 コマ） (4) 5/24(土)出版・デジタル情報資源の法的課題<知的財産権>（後半） （外部講師：小川明子 2 コマ） 電子書籍の基盤技術とその動向（鈴木伸崇 2 コマ） (5) 6/ 7(土)出版の社会的文化的意義と限界（後藤嘉宏） (6) 6/21(土)予備日</p>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・資料・情報資源の生産並びに流通を、出版社や取次、書店および図書館や関連機関も含めた多様な流れとして理解できるようになる。 ・出版・流通に関連する歴史、技術、法制度などを総合的に理解できるようになる。 ・地域資料からデジタル資料まで及ぶ情報資源の多様な側面を理解できるようになる。 			
評価の方法	<p>レポートと出席で評価する。 レポート課題六つの中から、三つを選んで解答する。各 30 点で、これに出席点を加えて 100 点満点とする。ただし出席回数が一定数未満の場合は、レポートの成績にかかわらず、「不可」とする。</p>			
教科書または参考書	<p>以下に各回の担当者が薦める参考書を掲げるが、内容や使い方については、それぞれ担当者が授業中に補足説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川井良介編『出版メディア入門（第 2 版）』日本評論社，2012，281p. ・アメリカ図書館協会知的自由部編，川崎良孝ほか訳『図書館の原則：図書館における知的自由マニュアル 第 8 版』日本図書館協会，2011，585p. ・境祐司ほか『EPUB3 スタンダード・デザインガイド』マイナビ，2012，256p. ・島並良ほか『著作権法入門』有斐閣，2009，310p. ・三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』日本図書館協会，1999，287p. ・中井正一『中井正一評論集』岩波書店（岩波文庫），1995，406p. 			
その他				